

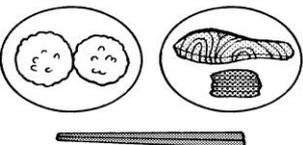
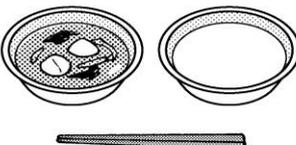
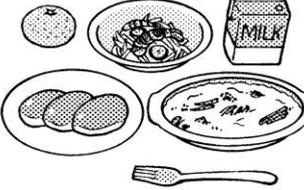
1月給食だより



令和5年1月
萩野台共同調理場

あけましておめでとうございます。冬休みが終わり、学校給食が始まります。みなさんがいつも食べている給食は、いつから始まったのか、知っていますか。学校給食の歴史を振り返ってみましょう。

おにぎりから始まった学校給食

明治22年 (1889年)	昭和22年 (1947年)	昭和58年 (1983年)	現在 (2023年)
			
<ul style="list-style-type: none">・おにぎり・塩さけ・菜の漬物	<ul style="list-style-type: none">・ミルク(脱脂粉乳)・トマトシチュー	<ul style="list-style-type: none">・ツイストパン・牛乳・卵とほうれんそうのグラタン・えびのサラダ・くだもの(みかん)	<ul style="list-style-type: none">・ごはん・牛乳・豆腐のハンバーグ・あえ物・みそ汁・みかん

学校給食は、明治22年(1889年)に山形県鶴岡町(現在の鶴岡市)の私立忠愛小学校で貧困児童を対象に、無償でおにぎりなどを提供したことが始まりです。

1月24日～30日は全国学校給食週間です

学校給食は、栄養バランスがよく、子どもたちの心身の発達や健康を支え、食に関する指導をすすめるための教材になっています。また、偏った食生活、肥満傾向など、子どもたちの食生活を取り巻く環境が大きく変化している中で、学校給食は、子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけるために重要な役割を果たしています。

学校給食週間では、子どもたちや先生だけではなく、地域の人にも、学校給食の意義や役割について理解を深め関心を高めるために、全国でさまざまな行事が行われています。

この機会に家族で給食について考えてみませんか

お正月に食べるおせち料理

おせち料理とは、もともと季節の変わり目の「^{せちにち}節日」に、神様に供える食べ物「^{おせちく}御節供」が略されたものです。その後、特に大切な節日であるお正月のみ、「おせち料理」と呼ばれるようになりました。おせち料理の一つひとつに、意味があり、願いが込められています。

また、家庭や住んでいる地域によって、料理や重箱の詰め方なども違います。自分の住んでいる地域や家のおせち料理はどんなものでしょうか。

